

編集後記

『大学教育研究フォーラム』第8号をお届けいたします。

1997年度に発足した全学共通カリキュラムが本年度で5年目を迎えたことで、本年度全カリ広報委員会では、再度全カリの出発点を確認し、これまでの成果を検討し、今後を展望するとの趣旨から、「全カリの目指すもの—専門性に立つ教養人を育てるには—」と題した公開シンポジウムを開催し、本号においても「全カリ5年間の成果と展望」と題する特集を組むことにいたしました。本号では、改めて全カリのモットーである「専門性に立つ教養人」とは何かを問いつつ、これまで4年間の成果を、運営委員、事務局、受講学生それぞれの立場から検討していただき、課題を提示していただきました。

「異なる学年、学部学生の多様な考え方との出会い」、「関心を抱きやすいリアルタイムのトピック」、「狭い意味での教養／専門を超えた多角的な視点、深みのある思考の獲得」など、全カリに対する積極的な評価が受講学生の皆さんから寄せられていることは、大変心強いものの、いっぽうで、公開シンポジウムの席上で話題にのぼったように、全カリの内容を多様化、広域化すればするほど、各学部の専門との連続性を欠く面が出現し、「専門性に立つ教養人」ならぬ、「専門性なき無教養人」を生み出す可能性があるのではないかとの危惧が存在することも事実です。

「専門性に立つ教養人」を単なるキャッチコピーに終わらせないために、今後その内実はさらに真剣に問われなければならないと思われませんが、本号がそのきっかけとなれば幸いです。

最後になりましたが、お忙しい中、本号に玉稿をお寄せいただいた皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

(大橋 健一)